

研究・調査報告書

報告書番号	担当
136	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol control policies and alcohol consumption by youth: a multi-national study. アルコール制限政策および青年期までの飲酒：多国間研究	
執筆者	
Paschall MJ, Grube JW, Kypri K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2009 Nov;104(11):1849-55.	
キーワード	
青年、アルコール、アルコールの入手しやすさ、アルコール制限政策、予防	
要 旨	
<p>目的： 26 カ国におけるアルコール制限政策と青年期の飲酒の関連を調査することである。</p> <p>方法： Alcohol Policy Index(API)に基づいたアルコール政策評価と一人あたりの飲酒量、および国ごとの青年期調査データの横断研究である。26 カ国において 2003 年 European School Survey Project on Alcohol and Other Drugs(ESPAD)に参加した、またはスペイン、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、および米国の国立高校の青年 (15-17 歳) を対象とした。API に基づいたアルコール政策評価、国立高校調査に基づいた飲酒、暴飲、および 13 歳までの初回飲酒の割合、2003 年のそれぞれの国における一人あたりの飲酒量を評価した。</p> <p>結果： より包括的な API 評価とアルコールの入手しやすさと宣伝制限評価は、過去 30 日間の飲酒の割合、過去 30 日間の飲酒回数が 3-5 回および 6 回以上と、逆相関していた。アルコール宣伝制御はまた過去 30 日間の暴飲の割合と 13 歳までの初回飲酒の割合と逆相関していた。API、アルコールの入手しやすさ、宣伝制御と飲酒割合の関連の大部分は、回帰分析時の一人あたりの飲酒量で調整後は、減弱またはもはや統計学的な有意差はなくなり、これらから一般人口において飲酒が交絡している、または観察されたアルコール制限政策と青年期の飲酒の関連を仲介している可能性が示唆された。いくつかの逆相関関係は一人あたりの飲酒量で調整後も統計学的に有意差は保持されていた。</p> <p>結論： より包括的で厳格なアルコール制限政策、特にアルコールの入手しやすさ、販売などに影響を与える政策は、青年期の飲酒の割合、頻度の低下、および初回飲酒の年齢と関連する。</p>	